河内長野市総合計画審議会第 3 回部会別意見集約（1 月 8 日現在）

		元気なまちづくり部会	調和と共生のまちづくり部会	協働のまちづくり部会
第3・4章	人口	・ プラス思考の前に、危機感を持ったプラス思考が必要ではないかと思う。 ・ 人口というのは都市経営という面から見ると基礎体力。それと、イメージ的に発展をしているなと。魅力のないまちは人口が増えないと思う。11 万になっても仕方がないというのではなく、できれば 12 万の水準を維持していく。 ・ 元気な人は徒歩圏外ゾーンで、ちょっと足の具合が悪くなると徒歩圏ゾーンとか、住む人が循環していき、全体では 12 万位の人口を保っていければ。 ・ 人口というのは、まちの魅力度の指標。人口というものをどう考えようかというのは、総合計画そのものだと思う。だから、人口という項目は書かないでほしいなと。人口を増やすために、何をやりますというのはおかしい。 ・ 個人的には、若年世代の流出を食い止めるというのが大きなポイント。 ・ 何をもって活動人口かということで、社会貢献としての活動もあるし、納税者としての活動もある。元気なまちにしていくには、企業人としてどうあるべきなのか、高齢者としてどうあるべきなのか、納税者としてどうあるべきなのかという部分の議論も必要なのではないか。 ・ 都市化というか住宅開発を進めていくのかどうか。自然環境を保護、保全していくということなど、もう少し突っ込んだ意見を聞きたい。 ・ 総合計画で魅力あるまちを作れば、人口は現在のままで推移するかもしれないし、増えるかもしれない、そういう考え方だ。 ・ 住宅施策ということを仮に項目として取り上げた時に、これ以上増やすことが、河内長野の自然との共存にどういう影響があるのか、いいのか悪いのか。それを先に考えなければいけないのではないか。 ・ 3 次総合計画の中で、5 つの保留フレームの問題がある。5 つの保留フレームについては、自然と調和した、質の高い定住を誘うための一定の整備というものは、やはり前向きにきちっと位置付けをしておくべき。人口の現状維持ということは、イコールマイナス思考という形になるのではないか。 ・ 人口問題について、数の問題と中身の問題があると思う。 ・ 人口の増減について議論をする時に、そのこと自体が目的になるのは違うと思う。例えば、環境が良ければ皆が来て、結果として人口が増えると。それから、年齢別に構成がどうなっているのか、あるいは、産業別に農業と商業、工業、サラリーマンだとか、考える要素はかなりあると思う。 ・ 人口というのはイメージとしては、やはり働き手、活動する人のイメージで、定年退職して年金で生活している人のイメージでない。納税出来る方の人口が増えてもらわないと活力には結びつかないという気がする。	・ 人口減少になるということだが、そのための対策、これは、国も府もやらなければならないが、本市としての対策も必要ではないか（鉄道整備の陳情等）。 ・ 若い人たちをいかに、河内長野市は呼び込むかとか、そのための対策なりを考えていかなければならないのではないか。 ・ 少子化の問題と高齢化の問題というのは、高齢化だけをとってみれば、別にそれは悪いことでも何でもないことで、元気なお年寄りが沢山いらっしゃるのはいいことだが、少子化の問題というのは、別の意味での大きな問題でもあると思う。 ・ 何故、全国平均以上に河内長野市が、少子化の問題においても高齢化の問題においても進みつつあるのかということを、少し明らかにしながらうたった方がいいのかなという感じはする。 ・ なぜ人口減少や高齢化の進行が起こった時に、その時に住んでおられる人々が持っておられる色々な能力とかをどういう風に活かしていくかという積極的な視点がほしい。 ・ それぞれの地域別に見て、ここは全部住んでいるかどうか、そういうところはどれだけ住んでいないのか、そこには原因がどうなっているのだということも、つかんでおかないと議論できない。	・ 今までは、常に右肩上がりの思考で物事を考えていたが、そういう時代でないという認識を持つべきではなかろうか。例えば、1 万人減るとすれば、その中で、どのようなまちづくりをしてくのかという観点で考えるべきではなかろうか。 ・ 人口問題は、出生率のところから考えていかなければいけないので、河内長野だけが頑張ってもということなので、減ってなおかつ元気になるまちづくりという視点で考えていけたらと思う。

		元気なまちづくり部会	調和と共生のまちづくり部会	協働のまちづくり部会
第3・4章	子育て・ひとづくり	・ 本当の教育を担うのは、これからはマンパワーだと思う。それには、シニアの老人力とか地元団体が大きな役割を果たすと思う。 ・ 学校教育だけではなく、文化というものを、どんどん利用なさって下さる市になってもらえればなと思っている。 ・ 今、子どもの教育で一番欠けているのは人間形成。子どもではなく、その親の世代が問題をまず何とかしないことには、その下の子どもは育たない。 ・ 人口問題に教育というのは非常に大きなウェイトを占めていると思う。その中で、河内長野市は教育特区としてこういう風なやり方をしますよということを出来ないであろうか。 ・ 教育という少し狭い部分よりも、第 4 次総合計画で一番力を入れて欲しいのは、人づくりという部分。 ・ 一番根本的なところで言えば、全てが目指すところは、人を育むまち、そういう形になるのではないか。	・ 子どもの人権とか子どもが安心出来るということを載せるということは、河内長野の姿勢を表すためにいいのではないかと思う。 ・ 若い方たちを呼び込もうと思ったら、やはり即、教育面が大きな重要な面になってくるのだと思う。 ・ 学校教育、教育の面と、それから、福祉の面とタイアップしていただきたい。	
	福祉		・ 福祉活動に従事している団体の身分保障を行ってほしい。 ・ 行政は行政として、福祉を必要としている人たちの情報を把握をしていっていただかなければいけない。 ・ 「地域が一体となった福祉の仕組みを推進し」について、仕組みにも、制度としての仕組みもあるし、活動をしていただくための仕組み、それはいわば、公的なものとしても位置付けることが必要だし、それ以外の部分として、支える部分も必要だということを示してほしい。 ・ 「公助、自助、共助」という言葉が示すように、色々な部門、色々なセクター、色々な社会資本がミックスされながら、一番いい仕組みを作っていかなければならないと思うが、福祉の場合、その可能性は充分にあるように思う。 ・ 民間のグループホームなどを含めた福祉施設の状況や施設間の関係を示した資料を作成する必要がある。	
	若者・世代間バランス		・ 若い人たちも、「私達も高齢になった時に、こうやって楽しく」という、生きがいを感じて生きていけるというので、魅力を感じて市の方に住んでくれると思う。	・ 若者の市民活動を促すには、情報の提供が必要であると感じている。
	安全・安心			・ 協働の仕組みづくりというのが、安全安心の都市へということにもつながっていく、基本的なものではないかなと思う。協働の仕組みづくりというのを、この 10 年間の重点施策の 1 つに挙げていただいて、やっていただければいいかなと思っている。
	歴史・文化	・ 伝統文化というよりも、河内長野の場合は、歴史文化と表現した方がいい。		

		元気なまちづくり部会	調和と共生のまちづくり部会	協働のまちづくり部会
	産業・活性化、都市基盤	・ 70 歳位までは、生産人口であり活動人口であるという風に考えて取り組んだらどうかなという気がする。	・ 社会的な基盤などは、ごく普通の必要なものとして、暗黙の了解の上に成り立っているということで、ここには書かれていないことが案外あるが、それは将来構想としては当然、確認の意味で書いておく必要がある。 ・ 若年層とか高年齢者への就労支援について、市として出来ることは、やっていくべきではないか。 ・ この河内長野にいるからこそ、「ああ、こういうことも出来る」という、高齢者の活動の場というのが必要。 ・ 就労支援の方なのですけれども、若年層、高齢層とおっしゃいましたが、そこに是非、障害者も入れていただきたい。 ・ 大阪市の「アーティスト　インキュベーション」のような活動を市としても出来ると思うのです。あまり予算もいらないと思うし、地域の活性化にもなる。 ・ 文化施設の規制緩和をしながら、その施設を利用しやすいという、こういう部分のことも一方ではやっていかないといけないと思う。 ・ 公共交通機関の充実というような言葉が入ってしかるべき。	・ 都市基盤整備が遅れていると思う。例えば、下水などでも、汚い水が流れている。「きれいだな」という、まちの中でも花づくりとか、そういう方面に少し力を入れてほしい。
	環境		・ 「共生」という言葉が少しボアっとしたイメージで、何か抽象的な言葉で、後の基本計画の展開でその辺の視点が大事なのではないか（人間同士、自然との関係も含めて） ・ 確認という意味で、自然環境の問題を明示をしておいた方がいいのかと、更には、具体的にしておいた方がいいと思う。 ・ 7 ページの、「異なる価値観や生き方を持った人」というのは、もう少し、今おっしゃったように、具体的に見えるような形で表現してほしい。もちろん、高齢者、障害者、諸々の色々な方たちのこと。 ・ 「滝畑アーティスト」のような、自然を意識した、そういう発表の場みたいな企画をもう 1 度復活してほしいなと、個人的には思っている。	

		元気なまちづくり部会	調和と共生のまちづくり部会	協働のまちづくり部会
	コミュニティ	• コミュニティがコミュニティになっていない部分というのが、今ある。だから、どうしてもう一度、コミュニティの再構築を図っていくか、そのところをうまく表現出来たらいいのではないか。	• 自治会をはじめとする小規模な組織が活性化すれば、行政が直面しているプライバシー等の問題もクリアできるのではないか。 • ボランティアという言葉自体は頻出しているが、ボランティア活動への支援ということが出てきていない。	• 小学校区単位とか身近なところで、地域の方々が自主的に集まって色々な活動が出来る、そういう拠点づくりをこの 10 年間で整備をしてくださいというような書きぶりなのかなと思う。 • 公民館をはじめとする、コミュニティ施設の運用方法を工夫すれば、使い勝手を上げられるというような部分も出てくるかと思う。 • 地域の拠点は、公共施設だけではなく、民間の場所でもあり得る。歴史建造物などが数多くなる河内長野では、それらを発見できる可能性は十分にある。 • 違う年齢同士の色々な人達との会話とか交流というのはなくて、気軽に集まれる場所というのを見つけるのは難しい。 • 皆が集まって、居心地が良くて、そこで色々な交流が生まれたり、コミュニティがつくられるような場所とか空間を、公園や公民館といった公共施設にこだわらず、河内長野の中で充実させるということが、この 10 年間の中であってもいいのかなと思う。 • 公園にしても利用規制があるから、うまく利用されないのではないか。 • 地域の出来事やはり、地域で考えていただく集団をどうつくっていくのかが重要。 • インターネットの掲示板のように、同じ意見を持つ人が集まるという場があれば、そして、自分も意見を言いたければ、そういう集まりに呼びかけがあれば、行ってみようかなと、自分もそういう風に思う。 • コミュニティと、ボランティアの問題がどうかなという。これからは、やはり、協働というところにはコミュニティもあるのですけれども、ボランティアというところも少し力を入れていかないと、自制が育たない。

		元気なまちづくり部会	調和と共生のまちづくり部会	協働のまちづくり部会
	市民と行政の関係		・ 民間の団体が、もっと力をつけていくような仕組み、あるいは、そういう方が活動出来るような条件整備、そういったものがこれから求められてくると思う。 ・ 環境調和都市と出てくるが、単に自然環境との調和だけではなくて、例えば、公・民を含めた社会資源の調和と、そういうテーマも考えられるのではないか。 ・ 情報の交流を強めるということにおいて、インターネットは、今までの手法に取って代わるものではない。市民の皆に情報がうまく伝わっていないという面があって、その辺が大きな課題だと思う。	・ 出来れば、色々な広報とか情報というのが、すごく行き交ったらいい。出来れば市民サイドで行政の情報を提供できる体制ができればいい。 ・ 交流の場所とか情報交換の場所を、この 10 年間で、色々なところでいくつもつくる。それを市役所が支援をしていただくというようなことも、重点施策の中では非常に重要なのかなという気がした。 ・ ちょっとした意見が、好き勝手に言えるような、そういう意見が集まる場があればいい。 ・ 若い方々も含めて自由に来て、色々な意見を交換出来るという意味では、ワークショップというのはとてもいい機会かなと思っている。 ・ 色々な市民に参加してもらうには、口コミというか、友達が一緒に行こうよと言ってくださるのが一番いいかなと思っている。から、仕掛け、仕組みを充実させる以上に、お１人おひとりの市の職員さんが、個人として市民の方々に声をかけていくことが重要。 ・ 用事があって集まる集まりはいっぱいあるのだけれども、何気なくぶらっと来て、お茶を飲みながら、雑談しながら意見交換が出来る場所というのは、案外ありそうでない。 ・ 公園、公民館などの公共施設の運営・管理については、思い切って地域に任せた方がうまく運用されると思う。 ・ 地域の公共施設をこれからつくるものというのがあるのであれば、デザインから、地域の人に愛されるようなものであれば、運営とかも快く引き受けてくれるのではないか。 ・ 行政が、施策、情報をどんどん吸い上げる、聴きに行くという形を、本気にならなければ、まだまだ河内長野は変わらないのかなという思いがある。 ・ 市民側も要望主体ではなく、皆で考えていって、解決の方向へもっていくということを皆が思い続けていかないと、なかなかうまくいかない。 ・ し尿処理場やごみの施設といった、市民に歓迎されない施設についても、協働のまちづくりは当てはまるのか。 ・ 子どもも含めた討論会やディスカッション、そういう場が出来ればと思っている。

		元気なまちづくり部会	調和と共生のまちづくり部会	協働のまちづくり部会
第３・４章	まちづくりのイメージ	・ 総論のキャッチフレーズ、セールスポイントとして、自然、伝統文化、人材の潜在力という３つを掲げたい。 ・ 都市と対立した形での自然ではなくて、都市と共存共栄する自然という意味でのキャッチコピーを探したい。 ・ 「共存している自然」というような形で言うと、全国の総合計画と同じになってしまう。 ・ 「遊学自然文化の里」という言葉が、大方網羅されているように思う。 ・ 都市ゾーンのイメージとしては、「いきいき健康文化都市」を目指すべきだ。 ・ 全体として河内長野市の売りをキャッチフレーズ的に言うならば「遊学」云々であると。その中身としては、「さとまち」のような自然、伝統文化、潜在的な力のある人材と、3つの要素が「遊学」云々を支えるものであるという、こういう風な理解でまとまっている感じがする。 ・ 将来像は、良い河内長野市民を目指すということが基本であって、日本国民としての国家観を先に持たせたい。 ・ まちづくりという意味では、人口が安定して、ようやく本来のまちづくりをしていかなければいけない時期なのかなという気がする。したがって、融合、交流、地域家族と言うか、地域で仲がいいようになっていく、その中で発展していくというイメージ。 ・ 自然的なものと、歴史、文化的なもの、人材とをうまくミックスさせて、１つのキャッチフレーズを作る。		
	まちづくりの手法	・ 縦割りをやめましょうということを、具体的に組織体制として言い始めることを、総合計画の文章で書けるものなのか。	・ モックルのコミュニティバスは、市営の公共施設の前に主に止まるようになっていると思うが、本当に行きたいところは、買い物などだと思う。でも、その前に、市営のバスだから民営の前に止まるのはちょっと出来ないかとは思うが、公と民の調和も必要ではないか。 ・ 広域行政というのはどんどん進めていけばいい。	・ 異なる分野の機能を複合的に実施することを考えていただくということも、この重点施策の中で、もっと取り入れてほしい。それが、いわゆる縦割り行政を変えていくということになるのだと思う。